

通常砂防事業事前評価調書

路線・河川等名	ひのくちがわ 樋ノ口川	事業名	通常砂防事業	補助・単独の別	補助
事業主体	京都府	事業箇所(区間)	福知山市 ^{まき} 牧地内		
事業概	目的	樋ノ口川は福知山市の山間部に位置し、国道9号と175号が合流する交通の要所となっており、診療所(渡辺医院)及び人家50戸等を保全対象とする危険溪流である。流域内には土石流対策施設が整備されておらず、また保全人家が多いため、地元からの要望も強く、砂防堰堤を整備し、土砂災害から地域の安全を確保する必要がある。			
	内容	砂防堰堤：N=1基 事業費：4.0億円			
	上位計画等	明日の京都 社会資本総合整備計画(防災・安全交付金)			
	スケジュール	着手年度：平成30年度　完成目標：平成34年度			
事業の必要性	事業を巡る社会経済情勢及び地元情勢等	○保全対象には、診療所(渡辺医院)及び人家50戸が含まれ、土石流が発生した場合、地域住民に与える影響は大きい。			
事業の有効性	事業の効果及び費用対便益等	○土石流等の土砂災害から下流に存在する人家等を保全する事業であり、投資効果は大きい。(B/C=10.9)			
事業の効率性等	コスト縮減代替案立案等の可能性及び良好な環境形成・保全	○周辺に文化財が存在することから、文化財への影響を避けるとともに、効率的に砂防えん堤の配置に努める。			
総合評価		本事業は、土砂災害からの人命保護及び地域の安全確保の観点から、新規事業着手の必要がある。			

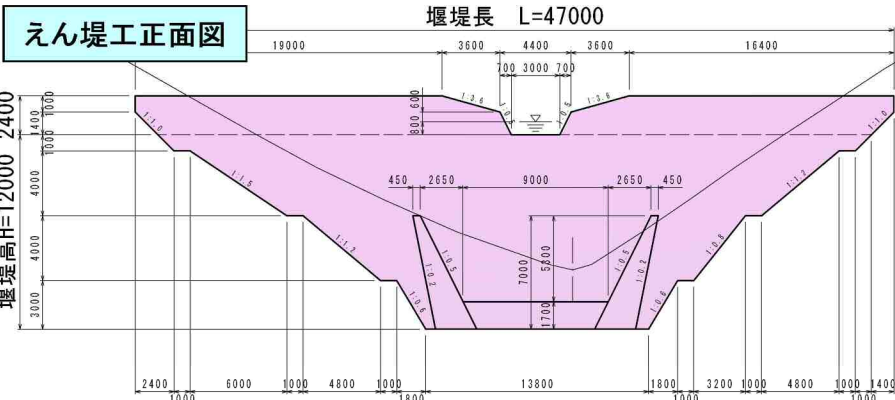
ゆらがわすいけい ひのくちかわ
由良川水系 樋ノ口川 通常砂防事業
 ふくちやまし まき
 福知山市 牧

◎事業目的

当該箇所は京都府北部の福知山市の山間部に位置し、国道9号と国道175号が合流する交通の要所となっており、流域面積0.12km²の土砂災害警戒区域内に、地域医療施設である渡辺医院、人家50戸が存在する溪流である。今後の集中豪雨等において懸念される土石流等による被害から、これら保全対象を守るため、事業を進める。

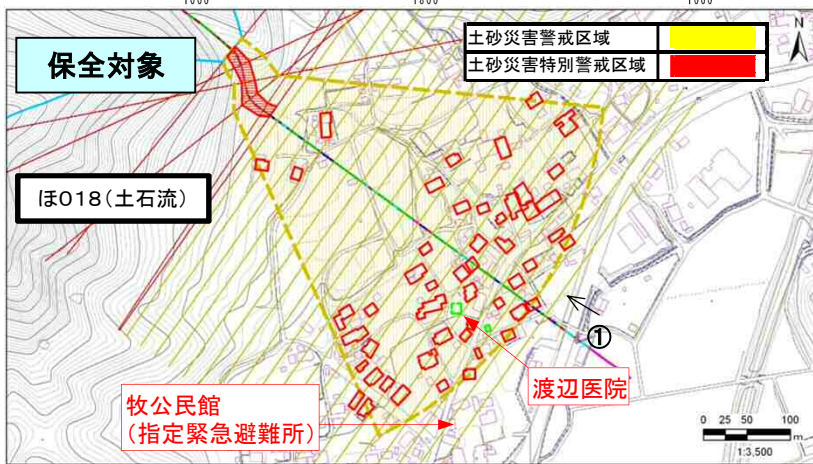
◎ 事業概要

全体計画	H29年度までの実績	H30年度計画
H30~H34 測量設計調査、用地補償、砂防えん堤1基、溪流保全、管理用道路 事業費：400百万円	なし	調査測量 事業費：30百万円 設計 事業費：5百万円

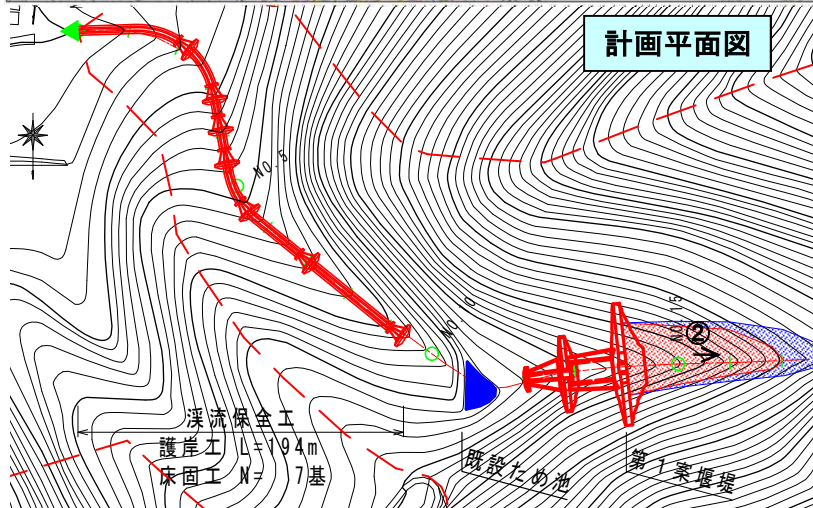


◎保全対象

人家50戸、渡辺医院（診療所）
市道1180m



① 全景



② 溪流荒廃状況



わ
『環』の公共事業構想ガイドライン評価シート

		作成年月日	平成30年4月20日		
		作成部署	建設交通部砂防課		
事業名	樋ノ口川通常砂防事業	地区名	福知山市牧 地内		
概算事業費	4.0億円	事業期間	平成30年度～平成34年度		
事業概要	砂防えん堤1基、溪流保全工				
目指すべき環境像	<p>事業箇所周辺は住宅地となっており、景観の保全が必要である。また、周辺には埋蔵文化財（古墳）が確認されており、事業実施に当たっては、景観や埋蔵文化財に与える影響を可能な限り小さくするよう配慮する。</p> <p>また、土砂災害の発生を防止する事業であり、地域住民の安心・安全を確保すると共に、動植物の生育環境と長期的な景観の保全により、地域の生活環境の保全に寄与する。</p>				
関連する公共事業	なし				
評価項目		施工地の環境特性と目標	環境配慮・環境創造のための措置内容	環境評価	
	主要な評価の視点 選定要否				
地球環境・自然環境	地球温暖化(CO ₂ 排出量等)	溪流が荒廃しており、渓床には不安定な土砂が堆積しているため、荒廃の進行を防止し、それに伴う溪流周辺の地形の保全を図る必要がある。	砂防えん堤工及び溪流保全工を整備することで、土砂災害の原因となる溪流の大規模な土砂移動を抑止し、現地地形の保全を図り、生態系の維持に寄与する。		
	地形・地質			○	3
	物質循環(土砂移動)			○	4
	野生生物・絶滅危惧種				
	生態系			○	3
	その他				
生活環境	ユニバーサルデザイン	溪流下流に人家等が位置しているため、工事期間中は工事車両による騒音・振動を抑制する必要がある。また、建設発生材を極力リサイクルする必要がある。	工事実施中は、低騒音・低振動機械を使用することを原則とする。また、建設発生材は当該工事や近隣の公共工事や民間工事と調整し、再利用に努める。		
	水環境・水循環				
	大気環境				
	土壌・地盤環境				
	騒音・振動			○	3
	廃棄物・リサイクル			○	3
	化学物質・粉じん等			○	3
	電磁波・電波・日照				
その他					
地域個性・文化環境	景観	埋蔵文化財が確認されており、施設の配置計画においては配慮が必要である。	文化財への影響がないような配置計画とした。地域住民に対して行う工事説明会等は、防災に対する意識向上を図り、地域住民との協働につながるよう検討する。	3	
	里山の保全				
	地域の文化資産			○	3
	伝統的行祭事				
	地域住民との協働			○	4
その他					
外部評価					